

**試行錯誤で難関ミッションに挑戦！
子どもたちの自ら考え行動する力を育てる「プログラミング体験講座」開催**

羽曳野市教育委員会は、令和8年8月20日(木)、市内の小学校3から6年生を対象とした「ロボットプログラミング体験講座」を開催します。学校で活用している学習用タブレットを使い、ロボットに命令を出して難関ミッションコースのクリアを目指します。3年目となる今年は、初心者が基礎から学べる「第1部」と、参加経験者が自分のペースで課題解決に挑む「第2部」の2部制へと進化。自ら考え行動する「プログラミング的思考」を育みます。



【過去のイベントの写真】

小学校でのプログラミング教育必修化に伴い、単に機器の操作方法を学ぶだけでなく、試行錯誤しながら課題を解決する「プログラミング的思考」の育成が求められています。

羽曳野市では今年で3回目となる本講座を開催。これまでの一斉体験型から一歩進め、子どもたちの習熟度に応じた「個別最適な学び」の場を提供します。

第1部(初心者向け)：基本操作から丁寧に学び、成功体験を通じて「プログラミングの楽しさ」を実感します。
第2部(経験者向け)：一律の解説を減らし、子どもたちが自ら設定されたミッションに対して自分のペースで試行錯誤し、解決策を導き出す「主体的な学び」を実践します。

■ 開催概要

日時：令和8年8月20日(木)

【第1部：初心者クラス】 9:00～12:00(定員：40名)

【第2部：経験者クラス】 14:00～16:00(定員：40名)

場所：羽曳野市立はびきの埴生学園 第2体育館

対象：市内小学校3～6年生

内容：学習用タブレットを使用したプログラミングロボットの操作・ミッションコース攻略

■ 本件に関するお問い合わせ先

羽曳野市教育委員会事務局 学校教育部 学校教育課

電話番号：072-958-1111(代表) メールアドレス：gakkoukyouiku@city.habikino.lg.jp

【参考資料】

●プログラミング的思考とは

自分が意図する一連の活動を実現するために、必要な動きの組合せを考え、記号（命令）の並べ方や直し方を論理的に検討していく力であり、小学校プログラミング教育の中核となる考え方。

●プログラミング的思考の定義

文科省は、意図した活動を実現するための動きの組合せを考える力と説明

※参照：文部科学省「小学校プログラミング教育の手引（第三版）」

記号や命令をどう並べるか、どう改善するかを論理的に考える思考

プログラミング言語の暗記ではなく、問題解決のための考え方が中心

●どんな力が身につくか

物事を順序立てて整理する力（手順化・アルゴリズム）

試行錯誤しながら改善する力（デバッグ・改善）

条件分岐や繰り返しなど、パターンで考える力

日常の問題を論理的に分解し、解決策を組み立てる力